



祝 100 号

センターだより「みち」が今月で第100号を迎えました。

「みち」第100号発刊を記念して

須賀川市教育委員会教育長 森合 義衛

第100号の発行は、本市教育委員会の素晴らしい金字塔であり、誇らしい限りです。ご存知のことと思いますが、平成24年4月に教育研修センター開設と同時に第1号を創刊して以来、センター指導主事が輪番で毎月1回欠かさず発行し今年で9年目となり、今回栄えある100号の発刊となりました。私も教育研修センター勤務時には5回ほど発行に携わらせていただきました。この「みち」は、市内小中学校の教職員が当面する「未知（みち）」の教育課題解決に資するための、進むべき「道（みち）」しるべとなるよう、豊かな指導経験を有する教育研修センター指導主事の叡智に「満ち（みち）」た広報誌です。 ～第1号に掲載の命名の由来より～



これまで発行された「みち」を改めて読み返してみますと、教育改革の時宜や的を射た珠玉の指導資料集となります。今後増加する新任者や若手教員への指導をはじめ校内研修等において、十分活用していただくことを願っております。なお、須賀川市公式HPの学校教育「教育研修センター」内のフォルダに全て集録されておりますのでご高覧の上、ご活用いただければ幸いです。

子どもたちの“心と体の健康調査”からの各学校での対応紹介

コロナウイルスの予防措置による長期の臨時休業で子どもたちの心とからだの状況が危惧された中、その実態把握のために各学校では学校再開直後に「子どもの心と体の健康調査」が実施されました。その後、各学校において、子どもたちの実態に応じた適切な支援や指導が行われていることが分かりました。いくつかの学校の対応について紹介させていただきます。

<コロナの偏見・差別予防指導>



コロナウイルスの予防や治療のために頑張っている人たちやコロナに感染してしまった人たちに対しての中傷や差別、偏見が見られるという現状があります。子ども達には正しい知識をもって行動する力を育てたいものです。

<免疫力を高めよう>



感染症を予防するには、日ごろから病気に打ち勝つ力“免疫力”を高めておく必要があります。体の中の免疫力の働きや、免疫力を高めるためにはどんなことに気を付ければいいのかについて、保健指導をしました。

<コロナウイルスって何だろう？>



健康調査の結果、コロナウイルスに対して、不安を抱えている子どもたちが多数いました。校内テレビ放送で、コロナウイルスについてや、予防法について、養護教諭が全校生に分かりやすく指導をしました。

子どもたちは、やっぱり学校が大好きです！

子どもからの手紙（ノンフィクションまんが）

画 ちかた☆ひろな

スタート



まんがの主人公（実在中学生）は、4月から須賀川市内のA中学校への入学を心待ちにしていたところ、コロナの措置で臨時休業になってしまい、いろいろな学校から集まってくる人たちと友達になれるかどうか、勉強は大丈夫だろうかと、部活動はどうするかなどと、不安いっぱいの思いを抱えながら過ごしていました。そんな思いに駆られていた時に、小学校4年生の時の担任から手紙が届きました。その時の励ましの言葉が、前向きのエネルギーとなり、学校再開後に思い切って他校から入学した子に声をかけてみました。その後、友達ができ楽しい学校生活がスタートしました。

その思いを得意のまんがに描き、元担任に送り届けられたものです。

このまんがを目にした時、とても新鮮な感動を覚えました。臨時休業中の子どもの素直な心情を汲み取ることができます。このまんがを須賀川市の先生方に紹介したいという強い思いが湧き起こりました。ここには、子どもたちにとって、学校という存在の大切さと教師との信頼関係が素直に描かれています。人生の中で大きなピンチに出会った時、子どもたちの心の中に残る教師、安心感を与えられる教師。教師という仕事は、いつまでも子どもたちの心にエールを届けられる応援団としてやりがいのある素晴らしい仕事だということを感じました。AIが目覚ましい進歩により、世の中から消えてしまう職業がある中で、教師は生き残れると言われていています。人間の心に働きかけることができる職業だからとのことです。

臨時休業期間が長期化したことで、不登校の児童生徒が増加するのではと心配されていました。しかし、各学校の先生方に聞いてみると、再開後に欠席する児童生徒は少なく、ある学校においては不登校だった子どもが学校に登校し始めたとのことです。どちらかと言うと今までは、子どもたちにとって学校とは「行かされている」「行かなくてはならない」という受動的な存在であったのかもしれませんが、今回のような世界的規模の災難を経験して、学校という存在が、能動的に「行きたい」場所変わった面もあったのではないのでしょうか。子どもたちは、色々な課題を抱えて学校に戻ってきました。学校、教師の果たす役割・責任は大きく、子どもたちの期待に応える指導・支援をしていくことが大切と思われま